

私にも 言わせて! 第67回

そこに住まうすべての人が、 その人らしく暮らせるように



佐世保市保健福祉部
保健福祉政策課 医長
讃岐 理々

熊本県出身。福岡大学医学部卒業。平成5年医師国家試験合格後、福岡大学筑紫病院消化器科に入局。11年より、佐世保で一般臨床医として勤務。29年4月より現職。

ご縁があり、平成29年4月に佐世保市保健所に入庁しました。初めて行政職員になり、着任当初は、医師としての診療より少し楽になるかなと思っておりましたが、早々に私の想像はもろくも崩れ去りました。現在は、感染等の健康危機管理や幼児健診・がん検診等の診察を行いながら、信頼される保健所の一員となるべく、研鑽を積むことに日々追われています。今回は、自分の夢について書かせていただきます。

その人らしく生きるための 支援とは

すべての住民が、「生きがいと居場所をもち、その人らしく地域で暮らし続けられるまち」をめざすまちづくりの仕事がしたいという強い願望です。臨床医時代に、不摂生が続く、全身の血管障害等で急性心筋梗塞や脳梗塞等を併発して入院し、退院しても生活する場所がなかなか見つからず、入退院を繰り返す患者さんをたくさん診てきました。病気だけ治してもその人の幸

せにつながらない、病院の中だけでは解決できない問題がたくさんあります。

また、医療にかかわる前と後（特に前の予防）の期間がとても重要です。

予防の観点からも、地域や介護、福祉部門の人と意思を共有し、行動したいと思っていました。特に地域とはその連携方法がわかりませんでした。

いま、進む医療制度改革の受け皿として、地域包括ケアシステムを推進し実行していかなければなりません。医療・介護・福祉・予防・住宅の連携は必須となつて

理想と現実にぶつかっても 一歩ずつ前進

しかし、現実には昨年に佐世保市保健所に入庁後、まだ一つのまちづくり事業の企画も立案できていません。せいぜい行ったことといえ、目の前の課の感染症担当と他課の食中毒担当と検査課の連携・情報共有強化を訴え始めたことぐらいです。

念願である医療との連携については、佐世保市にある200程度の医療機関中、連携・支援・お願い等で個別に訪問したのは、これまででまだ30機関程度ですが、現在、顔の見える関係を鋭意構築中です。

当然行政1年目の私が、変化をもたらすことは簡単なことではありません。しかし、「だれのためか」に「いつ・どこで」を明確にし、魅力的なめざすべき姿を共有するためには連携が必須です。

そして、あるべき姿を実現させる政策と、実際に機能する効果的なくみを実行していかなくてはなりません。成功を生み出すチームづくりも必要です。ま

きます。このシステムを使い、思いを共有し、若いときや病気になる前から地域で疾病予防・健康づくりを行い、たとえ病気になるって退院後、その人らしい生き方ができる方法を探り、保健所の医師として、その人らしい生活が地域でできるように、組織内・組織間・地域との小さなつなぎ役として仕事をしたいと思っています。

地域のあるべき姿とは ——夢を描く

「地域ですべての世代の住民が望めば、自分の育った地で自分が描いた人生を尊厳と自立をもって生活していくことができる」

「小さいころから小学生や中学生、若者、おじさん・おばさん、おじいちゃん・おばあちゃんたちに囲まれ、地域が子どもや子育てママの支援を行う。自分が望めば、常に「あるべき姿」をバージョンアップさせるしくみをシステムに組み込んで問題の解決に当たらなければなりません。

地域医療との連携は、地域医療の現場で起きている問題をきちんと把握し、その社会背景を整理して、課題と解決策を共有すること、協働してできることを提案し、行動を生み出していくこと、課題に関する専門知識と社会の視点からの方向づけが、ポイントだと考えます。

おわりに

現在の私はコーディネーターとして課題を俯瞰し、総体として把握し、体系化する分析力はまだまだだと自覚しています。信頼される実務能力も経験もまだまだたくわっていません。地道な取り組みを継続する忍耐力も不足しがちです。

しかし将来の夢とオープンな明るさで連携を語り、持ち前のフットワークのよさと責任感をもって今後も事業を行っていきます。小さな成功体験の積み重ねの

地域に雇用があり就職できる、体力づくりとともに体重・血圧を測定し、血圧を下げるための努力を行い、健康診断をきちんと受け、それを地域で促進・歓迎する青年団等があり、在住の若者がそれを担う」

「共生社会に向けてのソーシャルインクルージョンを実現させるには、就労が重要であり、そのために、地域でソーシャルファームを支える」——ソーシャルファームとは、通常の労働市場では仕事が見つかりにくい人々（障がい者を中心に、母子家庭の母親・ひきこもりの人等）が通常のビジネス手法で仕事の間を創設するもので、経済効果・人々の結びつき・住民の参加・協力によりまちに活気をもたらします。

まちづくりにも住民の参画・各種事業の連携・地域資源を活用するチャンスを与えてくれる可能性があります。中から自信を生み出し、行動の積み重ねが筋力をつけ、信頼される課題解決力を身につけることができると信じています。

今後も小さなつなぎ役としてまちづくりの実現に向け、頑張ります。非常に未熟な私を温かく見守っていただいている周囲の先輩、同僚、関係者の皆さま、そして支えてくれる私の家族に、この場を借りて心より感謝しお礼を申し上げます。

今回はこのような貴重な機会を与えてくださいました関係者の皆さま、誠にありがとうございました。

